

# 文化

ぎつかわけんもつつねまさ」と正確に読める人は少ないだろう。彼の読み方はよく間違えられる。吉川を「よしかわ」と読む人は少ないだろうが、幹を「まさ」と読ませるのは無理があるせいだ、あるいは通称の監物が流布しているせいだ、「つねも」と「または」つねまさ」と読まれたりする。幕末の十二代岩国藩

## 緑地帯

高遠 信次

主である。まず享年三十九の経幹の遺言を紹介したい。「余はいま大病に罹り、命旦夕に迫る。ゆえにこの命乱命とあればそれもや

### 幕末の岩国

②

#### 吉川監物経幹

が肝要である。いま天下のことが平途にして、その行く末を見極めたいのは「余はいま大病に罹り、命旦夕に迫る。ゆえにこの命乱命とあればそれもや

二九年九月に生まれ、十六歳で襲封し、慶応三年三月に逝去した。西郷隆盛より二歳歳下、吉田松陰より一歳上であり、同年(明治元年の前年)には高杉晋作・坂本龍馬が他界している。こう書けば彼の生きた時代がご理解いただけるだろう。

経幹は内にあつては藩校養老館を設立して、文武両面にわたつて人材を育成し、外にあつては江戸・京都・広島・萩・山口を訪問し、外交にその政治的手腕を発揮する。

経幹の活躍がなければ、幕末の長州史はまったく異なっていたであろう。その一例を紹介すれば、第一次幕長戦争前後、広島国秦寺(今の白神社東隣)において、長州の禁門の姿での行動ならび遠第3席受賞者(広島市)

第3席受賞者(広島市)